

おー!! 柏陽

北海道北見柏陽高等学校同窓会
「かしわ会」東京支部 2019年度会報

発行日 2019年8月24日

発行者 北海道北見柏陽高等学校同窓会 東京支部

椎名孝典 神奈川相模原市中央区並木3-12-13

二〇一八年度総会・ 懇親会開催される

2018. 10. 14
アルカディア市ヶ谷
(私学会館)

二〇一八年度の「かしわ会」東京支部
総会・懇親会は近年では最多の85名の
参加者を得て盛会のうちに終わりました。

総会は、校歌斉唱に始まり椎名支部
長、来賓のかしわ会本部舛川会長の挨拶
のあと、当期役員より二〇一七年度の活
動・会計報告がなされ、満場一致で承認
されました。

二〇一九年度総会・懇親会の 開催に当たって

かしわ会東京支部長 椎名孝典

令和の時代を迎え、柏陽高校同窓生の
皆様におかれましては、ますますご健勝
のこととお喜び申し上げます。

私ごとで恐縮ですが、我が18期生は
古稀の年を迎え、今更ながら1年があつ
という間に過ぎるのを感じております。

さて、「かしわ会」東京支部総会・懇
親会を昨年に続き「アルカディア市ヶ
谷」を会場として開催させていただく運
びとなりました。多くの同窓生の皆様が
一同に会し楽しいひと時になることを

懇親会は、

乾杯のあと、
古賀恵美子さん
の熱唱と飛び入

り登壇の出席者との合唱で盛り上がり、抽
選による北見地方産品などのプレゼント、
第三応援歌合唱と続いて、一本締めでお開
き、再会を約束して散会しました。

期待してご案内させていただきました。

当支部においては、ここ数年若い世代の
皆様に多数参加をいただけるようになり、
賑やかな懇親会ができていたのかな、と役
員一同胸をなでおろしているところです。

また、今回は新たに母校の校長に就任さ
れた29期卒業生であられる山本周男校
長先生をお迎えする予定で計画を進めて
おります。故郷の北見、北見柏陽高校の現
状をお話いただける機会ともなることを
願っております。是非多くの皆様にご参加
をいただきたいと思います。

最後に例年のお願いですが、同期の方々
で、当支部総会・懇親会のご案内が届いて
いない方もあるかと思ひます。是非お声掛
けいただければ幸いです。



報告・承認事項

■活動報告

・総会

・懇親会

■会計報告

(2018年1月～12月期)

・収入計

124万5435円

・支出計

88万5753円

・次期繰越金

35万9682円

■役員

支部長 椎名 孝典 (18期)

副支部長 小竹 利和 (20期)

著作 敏明 (20期)

古賀恵美子 (21期)

会計 飯渕 武雄 (18期)

会計監査 四十物治夫 (15期)

幹事長 小山 茂 (16期)

副幹事長 高島 正志 (18期)

手塚 勝巳 (18期)

角田 丈志 (19期)

■懇親会実行委員

18期 佐藤 英行

19期 広瀬 雅巳

2019年度 東京支部総会の開催に寄せて

北見の近況

北海道北見柏陽高等学校同窓会

かしわ会会長 舩川 誠

5月26日にお隣の佐呂間町で5月の歴代全国最高気温となる39.5℃を記録し、北見市も年間を通じ観測史上最高気温を更新する38.1℃となるなど全国的なニュースになりました。今年の夏はどんなことになってしまふのかと心配しましたが、今のところ気温的には寝苦しい夜も無く快適な夏となっております。東京支部の皆さんに会報が届くのは8月と伺っておりますが、私がこの原稿を書いているのは7月下旬、先週末には第66回北見ぼんちまつりが19〜21日の日程で開催されました。昔は小公園で「市民の夕べ」があり向かいの中央公園がイベント広場、銀座通りに露店がびっしりでしたが、今は素人縁日で大分少なくなりました。メイン広場が駅裏の北見芸術文化ホール駐車場になって開催されています。そしてフィナーレを飾るのは今も昔も納涼花火大会です。数年前から規模と内容を充実させ、道内有数の花火大会に育てようとの気運と地元企業の理解が進み、4千発の花火大会として評判になっています。久しぶりに帰省されての花火見物は如何ですか。近い距離で見ることが出来るので迫力満点ですよ。



上の絵は、建築パースです。今までは写真を載せ北見の変わりぶりをご紹介していましたが、今回は新しい市庁舎の完成予定図です。「複合交通・地域交流拠点」の一つとして整備されている新市庁舎は一番右側の建物です。真ん中の建物は昔の北見東急百貨店で、現在は1〜3階が後継店舗のコミュニティプラザ「パラポ」で4階以上は仮庁舎や飲食店街です。左端は、JR北見駅で小さくて分かりづらいですが、その右隣りが完成したばかりのバスターミナルです。小公園を前にした昔の市庁舎に郷愁を覚える方が多いかと思いますが、時代の移り変わりでですね。新市庁舎は地下1階・地上7階建てで延床面積は17,198㎡の規模になります。今までは市内5箇所に分散していて不便でしたのでようやく一度で用事が済むようになります。また、最近公表された計画として、駅から中央通りを小公園に向かって上がる途中にある商工会議所が入居する北見経済センター、昔の北見会館周辺の再開発事業も実施を目指すことになっています。人口減少が確実に進む状況にある北見市が進めるコンパクトな街づくりで少しでも賑わう場所が出来て欲しいものです。

かしわ会東京支部の会員の皆様のご健勝とご活躍、そして今年度の支部総会の御盛会をご祈念申し上げ、会長としてのご挨拶とさせていただきます。

新たな伝統づくり

札幌かしわ会会長 小林 秀章

令和という新しい時代を迎えましたが、同窓生の皆様、お変わりなくお元気でしょうか？

昨年11月の第49回明治神宮野球大会で、札幌大

谷高校が初出場ながら全国優勝を果たしました。あまり野球のイメージがない学校と思っていたのですが、ここまで強くなっている随分力が入りました。札幌大谷は仏教の精神を取り入れた女子中・高校でしたが、2009年から男女共学がスタートして、ちょうど10年が経ちました。大谷校とのつながりを申し上げれば、現職時に大谷女子中学生の施設見学で何度か案内を務めたことが少なからぬ接点でありました。野球部の活躍で一躍脚光を浴びることとなりましたが、生徒たちは中高一貫校なので中学時代から気心が知れていて、力を十分に発揮できる環境があったと平然としていたそうです。

また、ミッシェン系の北見藤高校が今年2019年4月から男女共学となりました。かつての藤女子高校は女子にも男子にもあがれがかったように記憶していますが、新たな1ページを作っていくのは学校関係者はもちろんのこと、当の生徒たちではないでしょうか。

わが母校北見柏陽高校も女子高としてスタートしました。札幌大谷も北見藤も次のステージで、新たな伝統を作り上げてくれることを願っております。



札幌かしわ会 来賓

かしわ会東京支部の皆様(着任の「挨拶」)

今年度、4月1日に第32

代北海道北見柏陽高等学校長

を拝命いたしました 山本

周男(やまもと ちかお)と

申します。創立96年を迎え



オホーツクの伝統校、また私(29期卒)の母校でもある柏陽高校に着任できましたことに大きな喜びを感じるとともに責任の重さに身が引き締まる思いです。浅学非才ではございますが、どうぞお引き立ての程お願いを申し上げます。かしわ会東京支部の皆様におかれましては母校の教育活動へ物心両面にわたってご支援を賜り誠に有難うございます。柏陽高校は校訓「柏魂陽心」の下で現在1年次が5クラス、2・3年次は6クラスで全校生徒667名が

学習・行事・部活動に励んでいます。多くの学校で「文武両道」をスローガンに掲げることが多くございますが、勿論、本校も様々な場面で、生徒を鼓舞する意味で使い、柏陽生には質の高い「バランス」と「成果」を求めています。基本的な生活習慣が確立され、素直で落ち着いており、品位と礼節を身に付けている生徒が今の柏陽生の実態です。この上は、様々な意味でたくましさや身に付けさせ、故郷の北見はもちろん世界を牽引する人材を輩出するよう邁進いたしますので、皆様の更なるご理解とご支援をお願い申し上げます。



1970年(昭和45年)夏の甲子園 行進する柏陽ナイン

母校野球部に

エールを送る

北見柏陽高等学校

22期(昭和47年3月)卒業

渡部 眞一

2019年度かしわ会東京支部総会のご盛会!心からお祝い申し上げます。

私事ですが、母校を卒業し公務員として勤めてきましたが、本年3月末をもって終止符をうちました。

昭和44年3月、希望に胸を膨らませて母校の門を叩きちやうど50年が経ちます。中学3年の秋、北見柏陽高等学校野球部が「秋季北海道大会で準優勝を遂げ選抜甲子園大会の補欠校になった」との担任の言葉が私の人生を決めました。同じ光西中学の仲間4人と「柏陽高校に行って甲子園出場を目指そう!」と受験勉強に励み、見事全員合格!合格発表の翌日4人で母校野球部を訪れ入部をお願いをし、見学と称して入学前から練習に参加したのでした。

当時の野球部は春季北海道大会で全道優勝を遂げ、「夏の甲子園大会出場は確実!」と言わしめる実力チームでしたが、夏の北海道大会では準決勝戦で不運な敗退となりました。泣きじゃくるわれら下級生の前で、敗戦が一番悔しい3年生に「おまえたちは甲子園に行けよ!」と言っていただいたことが忘れられません。その思いを持ち続けて練習に取り組んだ結果、翌年昭和45年北見市初の夏の甲子園大会出場を果たしました。

あれから50年が経とうとしています。近年の母校野球部の成績は芳しくなく、500名を超える野球部OBは残念な思いで一杯です。少子化が著しく部員数の減少傾向もあるでしょうが、チームとして着実に成長する取り組みを続けて、甲子園2回目の出場に向かってほしいと皆が思っています。

私も母校野球部OB会長を担うことになりましたので、現役母校野球部の応援・支援の先頭に立ち進んでまいります。

〈編集者記〉 寄稿者は退職前、北見市副市長の重責を担っておられたと伺っております。

同期会だより

18期 「古希の同期会」

2年前の「卒業50周年同期会」を札幌地区メンバーが中心となって、定山溪温泉で開催した時に、“古希の時にも会いたいね”という提案があり、幹事だった亀井さん、増田さん達から「2組の鴨下君が幹事長」をと指名があつて、「古希の同期会」の企画が動き出したのだった。

7月15日の“温根湯温泉大江本家”には、遠く奈良・京都・岐阜からと、関東地区からは14名、総勢74名が参加してのにぎやかな開催となった。二次会には、ほとんど全員が移動し、三次会にも40名近い人が参加、12時を過ぎても10数名が残っていた・・・。



16日は、「常呂カーリング場～美幌峠～摩周湖」観光に31名、阿寒湖宿泊コースに13名、さらにゴルフ組7名。近年は見える事が多い摩周湖だったが、見事なまでの「霧に包まれた摩周湖」を観ることになった。その後18時30分「瀋陽飯店」に44名が再度集合しての「2日目宴会」。皆さん最期まで元気一杯でした！

阿寒チームが柏陽高校を訪問した折に、4月から新校長として就任された山本周男校長（柏陽29期卒）が玄関で迎えて頂き、丁寧に構内を案内してもらった上に名刺まで頂いたということで、参加者一同感激してしまいました。山本校長先生、忙しい中のご対応、ありがとうございました。

初めての参加者も多く、30年ぶりの参加者も「また会いたい！」と言っていて、皆さん元気を貰って戻っていったようでした。幹事長の鴨下君、会計の大矢君、児玉の公ちゃん、磯松君、藤沢さん、植村さん、小椋さん、岩谷さん、山崎さん、山口さん、南さん他の皆さんお世話になりました。いつもながらの愉快的な同期会となりました。

感謝！感謝！！ 3年2組 高島

編集後記
今回の会報ではいつもにも増して野球部活躍の思い出に触れられる寄稿を多く頂きました。又、表紙トップの写真からは逞しく躍動する現役選手の姿が窺えます。お忙しい中、原稿や写真をお寄せくださいました方々、ありがとうございました。
角田記

21期

「全国版同期会、2回目を小樽でやりました」

第21期です！ 1970年柏陽が甲子園に行ったあの時に3年生で甲子園で活躍したヒーローたちがいた期です。

2018年10月に小樽の浅里温泉にて、第2回目の同期会が一泊二日で開催されました。

第1回目は還暦を機に北見で2014年8月に実施されたのですが、ちょうどその日に北見に台風が直撃！私は飛行機がキャンセルになり、当日になって穴を開けてしまい参加できず残念な想いのままでした。

時が過ぎ、第2回目をとのことになり、幹事は札幌組。ちょうど月に一度のペースで札幌に仕事入りしていた私は東京からの幹事とし諸準備に加わりました。

毎回札幌に行く度の幹事会には私にとっては懐かしの同期会をしているかのようでクラスを超えて関わる事ができたことは楽しいものでした。

当日は朝里温泉のホテルに北見・札幌・東京から、勿論甲子園のヒーローたちも集まり、交流会が始まると一瞬にしてあの頃にタイムスリップです。卒業アルバムをみながら顔確認???当日のプログラムには東京から参加の同期が描いた高校3年時の文化祭のプログラムの表紙デザインをそのまま使うなど、懐かしさは募るばかり。夜には小樽の街に出かけてしまう方もいたようで、青春してました。



翌日は小樽観光のオプションで、さすが地元の幹事にやる穴場案内。ガラス製品も北一硝子ではなく個人で工房をもっている方のところとか、地元の方が行く市場とか。小樽運河付近は賑わっていましたがすれ違うのは中国人や韓国人がほとんど。

帰りの空港往きの列車で隣に座ったバックパッカーのオーストラリア人女性の北海道巡りは3回目とのこと。道産子より北海道のことを知っていて感心するもちょっと焦る。

でも地元ならではのとおき観光と懐かしの高校時代へのタイムスリップは何よりものひと時でした。

古賀恵美子